

# 上越市議会 各層との意見交換会 開催記録

地域協議会 × 市議会



**【日時】** 令和元年10月8日(火)

10:00～12:00

**【会場】** 木田庁舎 第2委員会室

# 地域協議会 × 市議会

テーマ「地域協議会の現状と課題について」

○地域協議会の現状と課題について

・委員のなり手不足(若者や女性のなり手不足)について

	意見・質問
1	会議の手当が交通費1200円というのは、市の他組織の会議と比べて低いと感じる。自由に発言したいから必要ないという人もいるが、今後若い人達にも委員として後継してもらうためには一番大切な問題である。市では、市長の諮問機関であり、条例で定められていると言われるが、見直す必要がある。
2	(地方自治法202条5項で無報酬にできるという規定や、国会の付帯決議に原則無報酬とするよう周知するといった取り決めがあるということに対して)法律を出されてしまうと議論は止まってしまうので、上越市発信で法律を変えるよう動いても良いのではないか。
3	来年4月に改選を迎えるが、地域協議会の手当は何とかすべきという声がある。地域の課題・問題点を意見書として市にぶつけて、解決しており、貢献をしているので、そういった面を考えないと、優秀な人材は出てこないと思う。
4	費用弁償が1,200円ではダメ。ボランティアではやっていられないし、最低1回5000円とかにならないと、委員は集まらない。
5	地域協議会はほとんどボランティアに近く、1200円/回で実施している。近年は百歳まで活躍する時代であり、なり手がおらず、高田以外の区は欠員が出るくらい。
6	改選ごとに立候補ではない市長選任委員が多くなっており、関心が低い。頼まれたから出てきているという声もあるので、非常に残念である。
7	委員は、定年後の方が多くように思える。現役で働いている人もいるが、時間の都合もあり、夜に開催していても、欠席が多い。
8	区のこれからに対して無関心な人もおり、協議会の委員に立候補する人が少ない。人口減少の問題もあるので、委員の定数を見直す必要があるのではないか。
9	委員は町内会長から依頼することが多い。なり手不足解消を考えると、任期4年だが、市議会議員と任期を合わせてやる必要があるのか、随時補充とかがあってもよいのではないか。
10	男女共同参画はわかっているが、夕方の会議に出るために食事の支度や介護等を他の家族にお願いできる女性はまだ少なく、苦労しているのではないか。そういった思いをくみ取る必要があるのではないか。
11	委員のなり手不足問題に対し、区の中の各地域に出向いて協議会を開催し、協議会の認知度を上げようと3年ほど取り組んでいる。若い人から出てもらえないと委員は高齢化していく。住民もだんだんと年をとってきた。
12	区内でも複数の地区があり、それぞれ委員を配分し、地区ごとに振興協議会がメンバー推薦する仕組み。自分からなる人は少ないのでは。気力、頭、時間を使う割に権限はないのが地域協議会。かなりの負担で、若い人が休みを取ってまでは無理だろう。
13	午後6時に会議を開始しており、仕事している人は出席しにくく、応募しにくい。逆に開始時間を遅くすると帰りが心配となり、ネックとなっている。仕事している人が委員をやるとなると、地域の意見を聞けるのは休日となってしまう、限られた人になってしまうのではないか。

意見・質問	
14	公募公選制の公募は分かるが、公選は、市議選と一緒にやると候補者が少ない。なり手不足の原因を検討しなければ、いつまでたっても同じ状況だと思う。
15	公募公選制が事実上活用されていない現状を見ると、制度を一度真剣に考えるべき。現状は最終的に地区別になってしまうことが多い。うまく組み立てられれば、そこに女性や若者を何人かとできる。

・地域協議会として地域の声をどう拾うか

意見・質問	
1	町内会長連絡協議会、住民団体、地域協議会、市の総合事務所で連絡会を作っており、年数回、協議を行っている。特定の地域の課題に対しては、その課題に関わる商工会や観光協会から実態や思いを聞き取っている。
2	現在、町内会長がいないため、町内会との連携が課題であり、町内会長も所属しているまちづくり協議会と意見交換会をしている。
3	地域の課題は、各校区を回って出してもらい、4つの部会をもって、整理をしている。
4	自主的審議事項は、区内各地域との意見交換で拾いあげている。2年に1回、地区別(5地区)の意見交換会を行政と合同で行い、修繕は行政、地域課題は協議会で対応している。地域課題は聞くだけで終わらず、どの課題に絞るかを考えており、エネルギーを使う。
5	地域の皆さんとの意見交換会を行っている。町内会、老人会などから集まってもらい話し合えば、地域協議会の存在価値をわかってもらえる。
6	自主的審議に関しては、何が足りて何が足りないかを探るため、町内会長や支援団体との懇談を予定している。過去に実施した町内会長との懇談会では、地域の課題として、空き家対策、少子高齢化、防災があげられることが多い。
7	地域から、道や施設などの修繕要望が多い。地域協議会に要望するのか、市に要望するのかわからない。
8	地域の課題は、町内会長などと意見交換会を行い、そこから吸い上げている。
9	子どもの数が年々減っていることに対して、今後を見通し、PTAをはじめとする色々な団体や地域住民と話し合っている
10	自主的審議事項は、子どもの目線で地域をどう感じているかを知るため、中学生との意見交換を行ったが、子ども達の意見に対する解決策を示すことができないことが課題。通学路の外灯や歩道整備やアパートの建設、公共交通を便利にしてほしい、企業誘致に力を入れてほしい、米と野菜のPRをしてはどうか、遊べるところがほしいなど大人が気づかされるような意見があった。
11	若い委員が地域活性化のため、若者から高齢者が集まって話し合いをし、意見集約している。また、委員から地域の問題点を出して、協議している。
12	地域振興会と地域協議会で協議し、勉強会を行っている。地域の人達でどうやって地域を盛り立てるかを協議している。どう始めたらいいかが分からなかったというのが実態であり、市に相談し、コーディネーターを招いてやっている。地域の人が自分の案に基づいて活動しているという意識が高まっており、地域活性化に取り組んでいる。
13	地域協議会としての活動報告会は、町内会長や一般市民を対象に年1回行っている。しかし、普段委員の意見しか聞いていないため、もう少し区民との意見交換会を増やしていかないとと思っている。

意見・質問	
14	地域に出向いて懇談会を実施し、洗い出された地域の課題に対し、複数の部会を立ち上げ、活動を行っている。
15	住民にアンケートを取り、自主的審議にと考えていた。そうした工夫で地域の課題を明らかにしていくことが新たな取組。アンケートは、町内会長の負担を考え、QRコードを使うWEBで実施とした。

・地域支援事業のあり方について

意見・質問	
1	新しい団体からの応募もなく、また、新しいテーマも出なくなった感じがあり、課題と感じる。
2	利用者が固定化してくる可能性がある。それを解消するためにいろいろな場で発表し、浅く広く知ってもらうことで、多くの人に利用して良かったと思ってもらえたらよい。政治に関心を持ってもらえたら。
3	地域協議会への認知度が低いことや、地域のリーダー的な人がいないため、地域の要望を吸い上げられず、新しい事業の応募がないのではないかと。地域を盛り上げてくれる人をなんとか育てていきたい。
4	有識者から地域活性化の講演をしてもらった後、若者たちからいろいろ提案が出てきた。周知することは大事だと思った。
5	地域支援事業の認知度の低さが課題であり、どこの地区も地域協議会だよりや市の広報などで周知しているが、若者が興味を示さない。町内会経由で募集すれば違ってくるのではないかと。
6	町内会長会議の空いている時間で、地域活動支援事業で採択した内容を報告している。いろいろな場でPRすることは大事であり、また、それぞれの報告を聞くことで、勉強にもなる。
7	地域支援事業を通して地域の在り方を考えている。行政でなく、地域が地域をどうするか決められ、税金なのでむやみに使いきれないという意識がある。市に頼りすぎない。
8	地区の核となるイベントに対して、来た人をもてなそうという取組を地域支援事業を使って取り組んでいる。
9	(「地域活動支援事業にさく時間が多く、自主的審議事項にさく時間が無いと聞いたことがあるがどうか」という質問に対し、)負担は負担であるが、市で補助できないものも、地域活動支援事業で補助できる部分もあり、ありがたいと思う。
10	各区に割り振られた地域支援事業の予算をいかに有効に活用して地域の活性化に結び付けられるかが一番の課題である。ただ、そのことばかりを念頭に置いてしまうと、自主的審議事項を置いてきてしまうので今後もやり方を検討してほしい。
11	地域支援事業において物を買うにしても、何か活動がなければ認めないなど、割と厳しく使っていると思う。
12	地域支援事業に対し、特に備品整備などへは厳しい採点をした。結果、枠を余らせた。

・その他の現状や課題について

意見・質問	
1	人口減少の対応に苦慮しており、学校の問題が課題となっている。

意見・質問	
2	小学校統廃合について地域協議会で4年をかけて市に意見書を提出し、その後協議会として諮問され、地域住民に生活に支障がないものとして答申した。
3	一番の課題は、子どもの減少である。小学校は3校あるが、子どもが年々減っており、今後を見通して、PTAをはじめとする色々な団体や地域住民と話し合っている。なかなかいい案が出ない。それを踏まえ、市に意見書を出し、回答をもらっており、今後教育委員会の方からそれぞれの地区に出向いて保護者の皆さんをはじめとする地域の人と話し、考えを把握するとのことであった。
4	学校について、1区1校となっているが、約50人しかおらず、区を超えた統合という問題もある。市の概ねの方針を出さないと話し合いは難しいので、そういったことをお願いしたいと思っている。
5	有田区は、市内で唯一人口が増えているため、色々な問題もある。中でも小猿屋保育園の閉園について審議していく。自主的審議事項については、小学校の統廃合に伴い、旧小猿屋の小学校をどう使うかを市と協議中である。これから自主的審議が増えていくのではないかと考えている。
6	岐阜県の、小学校の空き教室に保育園を併設する事業を視察した。保育園と学校に通う子供を連れて帰れる、地域の小学校もなくならないで良いなど、メリットが多かった。
7	頸北地区の地域協議会の合同研修会で「上越市における少子高齢化問題と市の施策」というテーマで、現状について聞いた。こういった合同研修会や意見交換会などして交流を進めてほしい。
8	地域協議会の委員の方が中心となって作ったグループが主催する婚活イベントをやったりもしたが、市でもそういった婚活を行う団体をバックアップしてほしい。
9	人口減少についてを最重要課題として委員間で協議している。空き家の調査や、地区を知ってもらうための景勝地や魅力ある場所を調べ、地域のマップを作っている。上越教育大学の先生の講義を受けながらやっている。28区の中で1つでも人口減少を解決できればと思い活動している。
10	人口減少が課題。安塚高校も2年後になくなり、小学校に入学する子どもの数も減ってきている。なんとかして食い止めなければならぬと思っている。地域だけではどうにもならなくなってきている。
11	頸北4区の地域協議会で集まり、人口減少、少子高齢化が大きな課題だと意見が一致した。頸城区は少子化は緩やかだが、他区と同様、高齢化の進行が問題だ。それが地域の一番の問題とわかっていい。交通対策など、地域協議会に課せられた責任は重い。
12	地域協議会のメンバーが中心となって移住促進に向けて活動しているが、認知されない。4回程先進地視察に行き、取り入れるべき取組もあった。現在のメンバーは働いている方が多く、中心となる方がいないと難しいが、月に1回は会合を行っているので、地域協議会と併せて行っていければと思う。
13	市街化調整区域であったが、市と協議して多少緩和してもらい、家が4、5軒はできたが、その後は増えていない。土地は安いのが、下水道や水道などのインフラをつなぐのにお金がかかるため、補助してもらえればと思っている。また、家を建てようとしても、保倉川周辺は大雨等で避難情報が出て不安と思われるので、保倉川放水路を進めてほしい。
14	他区地域協議会との研修会も実施し、中山間地振興、具体的には、空き家対策問題を自主的審議事項とした。区内の2集落を視察、高齢化と相まって大変な状況であることを把握した。今年度は、勉強と位置づけ、視察を行った。なかなか解決策を見出すのは難しいが、緒となるものを見つけた。
15	平場は農地の大規模整備が進んでいるが、山間地が問題を抱えている。買い物、病院といった交通手段や空き家対策について、妙案はないが少しずつ取り組みたい。
16	区内各地域との意見交換で自主的審議事項を拾いあげている。3年前から「元気の出る事業」に取り組んでいる。この取組は、市内でも頸城の2例(前回、今回)しかない。その組み立て方を勉強中だが、市もまた組み立て方がわかっておらず時間がかかっている。ルール化もできていない。行政と組み立て方、ルール含め検討し、活性化につなげていきたいと考える。行政とともに進める際に、どこの所管なのか定まっていない。

意見・質問	
17	直江津区は、交通渋滞の課題はあるが水族博物館が好調である。その好調なうちにまちなかの活性化など課題を解決したいと考え、地域協議会で話し合っていくつもりだ。
18	水族博物館が好調なうちに、なんとかやらなければいけない。水族館と連携した取組の「まちなか水族館」は、設置場所となっている人が維持するのに苦労しているので、水族博物館からの指導を強化してほしい。また、水族館もいろいろ工夫はしており、海洋汚染、廃プラスチック問題について水族博物館でも展示しているが、レストランのストローは変えたが、自販機はまだなど、対策がちぐはぐである。明日できることを話し合っていく。
19	自主的審議事項については、津有区は、4年間の視野で、スケジュールを立ててそれに沿ってやっている。昨年、テーマを高齢者の足の確保にしぼった。公共交通のあり方を探り、今年は長野県御代田町などに視察へ行った。これから11月までに対策をまとめることとしている。地域でアンケートを取りたかったが、町内の手間など色々考え、WEBを使ってのアンケートを行った。これをまとめ、その結果を次期の協議会に引き継ぎたい。
20	公共交通については、なんとか現状維持したい。
21	高齢者の交通の足をどう確保するかが問題。
22	施設の開館時間、閉館時間、休館日の答申について、今後の利用予定や実態についての資料も含めて説明してほしい。この答申も何のためにやっているのか分かりづらく、自分で市のホームページを調べて初めて条例制定のためだと分かった。
23	新道区は南北に長くそれぞれのエリアで抱える問題がいろいろあるが、共通の課題は、高齢者が集まる公の施設の老朽化である。足腰が悪かったり、障害があったりして自由に使えず、使いたい方が使えない現状がある。市の担当課に来てもらい説明を受けたが、資金不足という回答だった。市としてどう運用していくかはっきり示してもらいたいと考えており、意見書なども考えたい。
24	公の施設の問題がある。あさひ荘などが譲渡となってきた。この動きは止まっているが、山の方の施設が廃止されていくのが懸念される。
25	今後としては、公の施設の使用料の見直しについての審議が出てくる。以前は、自主的審議ができないという意見が各区の会長から出て、大学の先生からも自主的審議を優先すべきという意見があったので、多少は自主審議ができないという声も少なくなっている。
26	各区の事務所にいる当直の人をなくすことで市全体での経費縮減を図るとしているが、夜間に火災や停電時の知らせができない。旧上越市等では火災時の防災無線での知らせはしなくても、消防団には連絡できるということで支障はないと説明があった。山林火災や民家火災など、どのレベルの火災で防災無線を使うのか、火災時の連絡は総合事務所長に任せ、災害時は区の職員が事務所に参集するとあるが、区在住でない人も多いため、どうなのかといったことを、行政からの素案を元に審議し、年内に意見書として出す予定である。防災無線の貸与から時間がたっているので、使い方なども分からなくなっているため、再度住民に周知するという内容を意見書に盛り込む。
27	地域協議会に来る案件は、既に市で方向性が決まっていることが多く、説明のみのことが多く、議会には、地域での説明も終わった状態での説明があるのではないかと。
28	総合事務所の休日・夜間受付業務の廃止について、市は報告事項として出してきた。本来は諮問事項のほうではないか。地域としては納得いかず、委員は行政のやり方に不満を抱いている。これに対する要望書を兼ねた意見書を提出した。
29	市議会議員がいない区なので、行政に対して地域協議会が4地区それぞれからの要望事項を出している。なかなか予算の問題などでやってもらえない。最近、現地の様子などを所長が見たことで、少し事業が進み始めた。一番人口減少が激しい地区であり、そうした中で、どう元気な区を作るか、活性化できるかが課題。
30	予算もなく、権限もないので、地域協議会はなくてもいいのではないかと、という声もある。
31	今は地域支援事業の審議が最重要課題となっている。予算がなくなった中で諮問も淘汰されていきながら、地域に来る諮問は建物の廃止や公共施設の料金しかなく、そこに意見する余地もない。審議するに値する諮問はないというのが現状である。
32	委員それぞれが問題を持ち寄って自主審議するということまで成熟していない。自主審議としては、海に近いので、民家に砂利が飛んでくることに対する対策を市にお願いしたという案件があった。

意見・質問	
33	自主審議は市長に意見するのではなく、市に依頼するもの、市と連携するもの、市の補助を受けるもの、地域で解決するものにふり分けて対応すべきである。
34	地域協議会の今後の課題として、諮問ではなく、市から各区地域協議会へ各区をどうするかをのグランドデザインをまかせてはどうか。市の事業提案に対して地域協議会にも審議させてほしい。
35	地域協議会にも執行できる予算があればと思う。
36	自主的審議事項は、どの問題でも地域にとって解決が難しい。市の方針や長期の計画の中で、人口減少や財政課題を振りかざされる。公共施設の廃止など地域住民にとって深刻な問題である。
37	委員があまり積極的でなく、活動があまりできていない。いろいろな補助金の申請もわずかしかない。おとなしい委員が多い。自主的審議事項の中で、協議会として、地域活性化につながる大きな提案が出来るような組織づくりをしていきたい。地域を盛り上げる冬のイベントを考えており、それに向けた組織を立ち上げた。
38	自主的審議事項は、市の事業に限定されているが、地域では、火力発電所建設や港の問題、保倉川放水路など県の管轄の問題もある。これらは市の事業ではない。市以外の事業に対する自主的審議事項の進め方や在り方を検討すべき。
39	諮問は、自分の区に限定されているが、全市的に影響ある事業(うみがたり、オーレンプラザ等)や関心のある事業は、他の区の地域協議会では、議論すらできない。自主的審議事項とまではいかなくとも、他の区の見聞を聞くくらいでもいいのではないか。他の区の見聞も持ち寄り、市の方で全市的な課題を取り上げることで、地域に新たな問題提起が出来るのでは、と思っている。うみがたりやオーレンは、直江津、高田だけの問題ではない。
40	地域協議会は、地域の事しかできないと思った。市全体での大きい問題は、地域として意見をまとめることは必要ではないか。諮問事項でなく、報告事項で来るやり方は、おかしいと思っている。
41	海岸線のごみの不法投棄の問題は、地域として悩ましい。しかし、管理は市ではないため、議論ができず、一方通行になっている。国や県の事業に対し、地域協議会はどういう立場で、地元の課題として議論できるのか整理されていない。
42	隣接区でも同じ課題を抱えているのであれば、複数の区でも同じ自主的審議事項をやるのも必要だと思う。
43	年代によって抱えている課題は異なるが、それを意見する場がない。行政側がそれを協議会に投げかけ、議論することで、議論の幅も広がるし、活性化につながり、年齢層ごとの意見をくみ上げる場にもなると思う。
44	合併前上越市の各まちづくりセンターでは、3～4区をかけもちしており、職員がそれぞれ2～3人で、3～4区も地域協議会の運営は出来ないと思う。(本来、センターは15あってもいいのではないか。)区の総合事務所や各センターが地域協議会の事務局として、どう役割を果たし、どう機能しているか、また、何が必要で何が足りないのか、検証すべきと思う。
45	合併前のまちづくりセンターでは、ある区につきっきりになっており、他の区には、ほとんど時間を使っていない。同じセンター所管の区では、それぞれの区同士で話し合ってもよいのではないか。
46	委員の手当の話が出たが、学校運営委員会などの手当での取り扱いも含めて考える必要がある。

#### ・議会に対する要望

意見・質問	
1	年に1回はこういった地域協議会委員同士の話を聞ける会を継続して実施してほしい。
2	地域協議会委員内で協議する必要もあるので、議会と地域協議会との意見交換会のテーマを事前に教えてほしかった。今後、こういった会があった際に、そういった段取りをしてほしい。
3	地域協議会は傍聴者が少ない。市議会議員の方も来てほしい。

意見・質問	
4	自主審議として、公の施設の課題に取り組んでいて、使用団体とも意見交換している。議員にも地域の実情を知ってほしい。地区の議員だけでなく、近隣の議員もぜひ足を運んでほしい。
5	議会の役割がわからないのではないかと。議員にはぜひ協議会に顔を出してほしい。我々は仕事があったりで、議会には足を運ばない。
6	議会でも、1年に1回でもよいから、もっと地域協議会を傍聴して、その地域の苦勞している状況を把握してほしい。傍聴することで、本会議などでも議論が活発になるのではないかと。
7	名立からは議員が選出されていないこともあり、1年に1度くらい地域協議会に傍聴に来て、現状を知ってほしい。
8	議会では、会派で市長へ要望をすることがあるが、地域協議会の意見を聞いたことが無い。少なくとも予算編成時など、地域協議会の意見を聞いた方が市長との議論も活発になると思う。
9	市議会の常任委員会の資料の傍聴の際に、傍聴者に無料で提供してほしい。
10	議員から関心を持ってもらうことが必要。
11	議会は地域協議会についてよく議論しているのは承知しているが、スタイル、形態にこだわっている。地域の声を拾い上げるシステムをどうするか本質の議論を。
12	議会で、地域協議会の公選制の問題が取り上げられていた。地域協議会は市から押し付けられたわけではなく、自分達でやるという気持ちがあり、地域支援事業も自分で決めるという意識の醸成ができています。これからは時間をかけて育ててほしい。
13	女性の立場で地域のことを決められる立場に立てる身近なものは地域協議会である。地域をよくする、元気にするためにも地域支援事業は必要であり、議会、地域協議会もそれぞれの立場でともに活動していければと思う。
14	議会改革をがんばってほしい。
15	小さな区から議員出すのも難しい、なかなか声があがっていかないと感じる。協議会や住民が発言していないのもあるが。
16	中郷では、議員が選出されていない。28地域自治区プラスαで選出できないか、と思っている。選出エリアが集中すると、課題も集中するのでは、と思っている。
17	特に、議員が選出されていない区など、なかなか議員をとおして市政に反映できない。地域の声を議会が取り上げるチャンスでもある。議会として考えてもらいたい。
18	地域協議会を所管する事務所がどこまでできるか、という問題もある。例えば、課題があるから市議会に報告する、と言った時に、各センターがどうぞ、というかどうか。各センターは、行政目線で地域協議会の取りまとめ事項を見ている。
19	諮問の内容は、廃止の問題ばかりなので、もっとポジティブな諮問をしても良いのでは。